

第30回肝臓教室

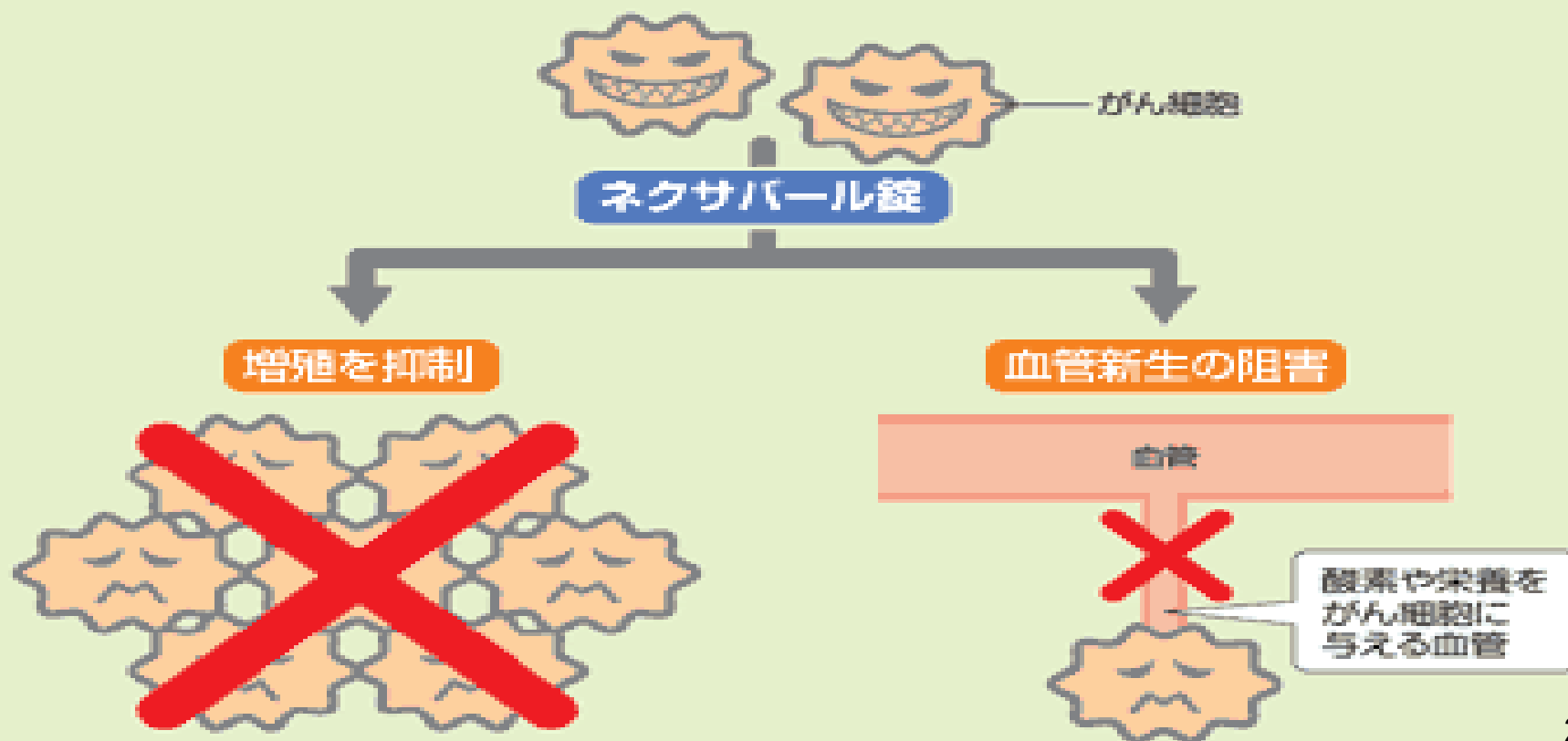
ネクスバルについて

外来看護師 井上和美

ネクサバルについて

- * ネクサバル錠は、がん細胞において、増殖や病気の進行にかかわる遺伝子やたんぱく質などの分子の働きを抑えることにより、がんの進行を抑える経口のお薬です。ネクサバル錠の作用は大きく分けて2つあります

現在わかっているネクサバル錠のがん細胞増殖抑制効果は大きく分けて2つあります



ネクサバールの服用時の注意点

- ・自己判断で減量や中止せず、医師の指示に従ってください
- ・薬局で買ったお薬やサプリメントも含めて、必ず医師に相談してください
- ・飲み忘れたときは、2回分まとめて飲まず、次回の服用時間に1回分服用してください。
- ・脂肪食をとった場合には、食事の1時間前から食後2時間までの間を避けて服用してください(薬の作用を弱めることがあります)



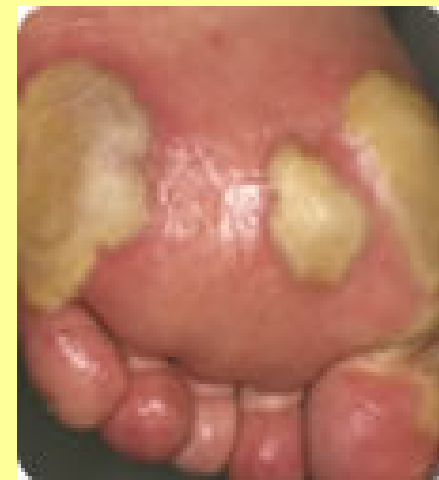
ネクサバールの副作用について

手足症候群(発現頻度:55.2%)

- ・手のひらや足の裏にチクチク感、ヒリヒリ感といった皮膚の違和感、ほてり感、赤く腫れる、角質が厚くなるなどの症状(手足症候群)があらわれることがあります
- ・手足の普段から圧力や摩擦のかかるところ、角質が厚くなっている場所にあらわれます。手足症候群を放置すると痛み、水ぶくれなどができ、手を使った日常的な活動や歩行が困難になることがあります。



中等度症状



高度症状

対処方法及び予防方法

手足症候群を予防するためには、普段から手足への過剰な刺激を避け、保湿剤を用いて皮膚を保護し、乾燥や角化・角質肥厚を防ぐことが重要です。



保湿

- 手を洗った後や入浴後は、皮膚が乾燥しないように速やかに保湿剤を塗布する習慣をつけましょう。
- 就寝時には保湿剤を塗布後、木綿の手袋・靴下を着用しましょう。

その他の注意

- 熱いお風呂には入らない(40℃までを目安とする)。
- 長時間の入浴は避けましょう(入浴時間を10分程度にする)。

対処方法及び予防方法

足の保護

- 足にあった履きやすい靴、柔らかい中敷を使用しましょう。
- 足にあわない小さめの靴、革靴、ハイヒール、健康サンダルは避けましょう。
- 木綿の厚めの靴下を着用しましょう。
- 屋内ではスリッパを使用しましょう。
- 長時間の歩行や立ち仕事、ジョギング等は控えましょう。

手の保護

- 木綿の手袋を着用しましょう。
- 長時間の筆記、雑巾絞り、固いふたの開け閉め、包丁仕事、土仕事圧のかかる手作業や重い荷物を持つことは控えましょう。
- 水仕事は出来るだけ避けましょう。
- 水仕事を行う際には、保湿剤を塗布後、木綿の手袋の上にゴム手袋⁷をして行いましょう。

発疹(発現頻度:40.7%)

★服用を開始して比較的早い時期に、顔、頭皮にピリピリ感、熱感、かゆみを伴う発疹や体に赤い発疹があらわれることがあります



発疹を防ぐための対処法

- 直射日光を避けましょう。
- 日焼け止めを塗布したり、帽子をかぶったりして日焼けを避けましょう。
- 皮膚の乾燥を避けるために、保湿クリーム・ローションを頻回に塗布しましょう。
- 入浴やシャワーを毎日行い、皮膚を清潔にしましょう。
- 刺激や洗浄力の強い石鹸の使用、熱いシャワーは避けましょう。

高血圧(発現頻度:27.6%)

家庭で測定する場合の注意点

- できる限り同じ時間帯、同じ腕で測定しましょう。
 - 腕や手首などの測定する部位を、心臓と同じ高さの位置に調節して測定しましょう。
 - 血圧を測定した場合は、ネクサバル錠服用ダイアリーに記載しておき、受診時に持参してください
- ★最高血圧が140mmHg以上(家庭での測定:135mmHg以上)または最低血圧が90mmHg以上(家庭での測定:85mmHg以上)を示した場合、医師・看護師・薬剤師に連絡して指示に従ってください



下痢(多くの場合は、生活や食事に注意し、下痢止めのお薬を服用することで対処できます。)

生活上の注意点

- ・ストレスにより消化管の運動が亢進することがあります。不安や緊張を取り除き、リラックスした状態を保つことを心がけましょう。
- ・温水洗浄便座などを利用して、肛門部を清潔に保ち、柔らかい紙で拭いて、感染を予防しましょう。
- ・腹部を温めましょう。

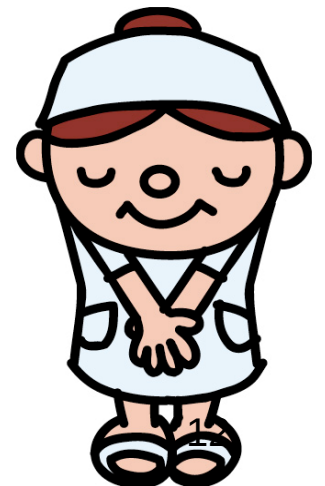
食事についての注意点

- ・アルコールやカフェインの入った飲料は避け、室温の水分(スポーツ飲料や水)を十分にとりましょう。
- ・脂肪分の多いもの、揚げ物、香辛料を多く使った刺激のあるもの、繊維の多い食品(キャベツ、豆類など)は避けましょう。
- ・下痢が続くとカリウムが不足しますので、カリウムを多く含む食品をとりましょう。

外来化学療法について

外来化学療法について

- ・ 現在、化学療法の副作用の管理技術が進歩した結果、入院ではなく外来での化学療法が可能となりました。
- ・ 化学療法を「より快適に、より安全に、安心して治療を受けたい」という要望にこたえるため、当院ではアメニティーセンターを設置し治療を行っています。
- ・ 日常生活を送りながら、化学療法が継続できるように、患者様の「気がかり」なことに配慮し、一緒に取り組んでいきたいと考えています。
- ・ 安心して入院治療から外来治療へ移行して頂くために、退院前に患者・ご家族と面談し外来化学療法についてオリエンテーションを行っています。

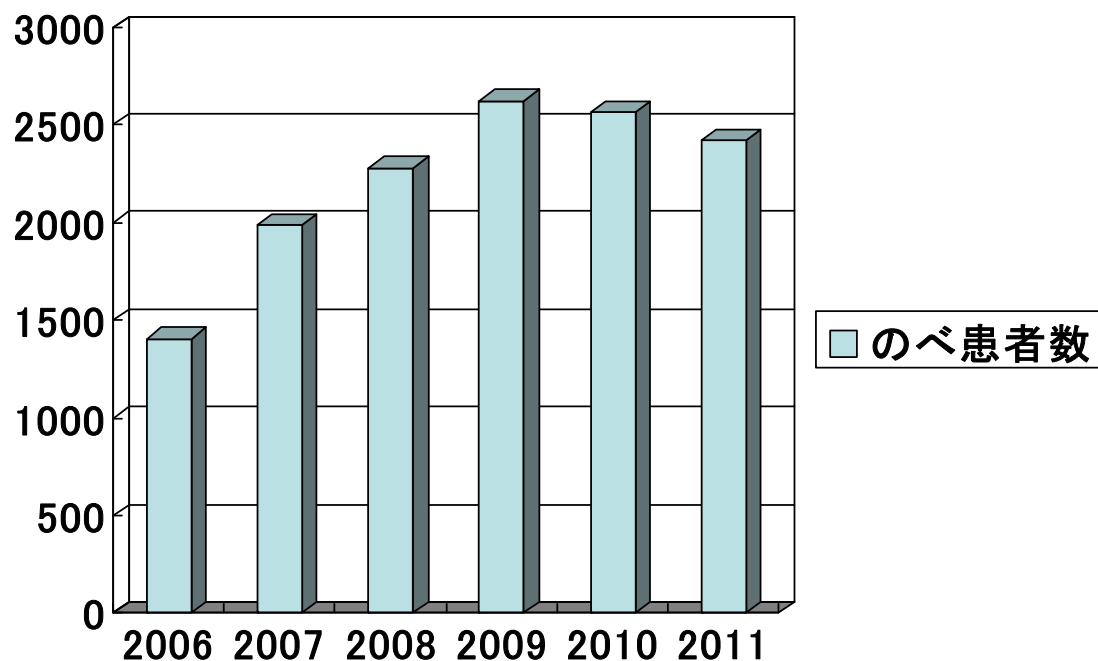


アメニティーセンター概要

【開設】 2006年 4月

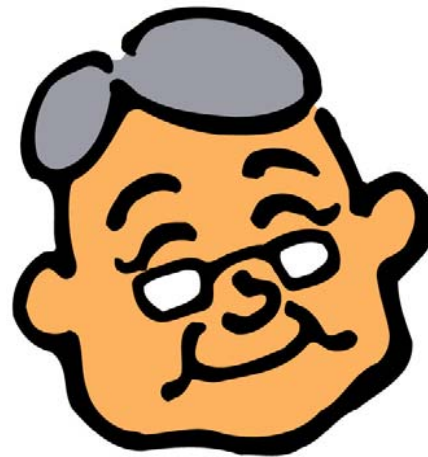
【ベッド数】ベッド5台、
リクライニングチェアー3台

アメニティーセンター利用 患者数推移(年間)



外来化学療法の特長

家族と一緒に
過ごせる



住み慣れた家・地域
で過ごせる

仕事をしながら
治療ができる
(経済的にプラス)

精神的に
リラックスできる

家庭での役割を
果たすことができる

外来化学療法のリスク



具合が悪く
なったらどう
しよう

何かあったとき
対応が遅れるの
ではないか？

- ★副作用の予防に努め、副作用出現時に
その対応が遅れることのないよう細心の注意を払うように心がけています
- ★外来化学療法を受ける患者様には、副作用を予防するために
自己管理していただくことが重要です。患者様が治療の理解を
深め、副作用などへ対処できるようにパンフレットを用いて説明や
相談に応じています。
- ★当院は救急外来を設けていますので、患者様からの連絡に24時
間対応できる体制を整えております。

御静聴ありがとうございました。

